

1 仙台城跡の被災状況

平成 23 年 3 月 11 日の地震及びその後の余震により、仙台城内の石垣に崩落や変形の被害が生じ、本丸東側ではがけ崩れが発生しました。主な被害状況を以下に示します。

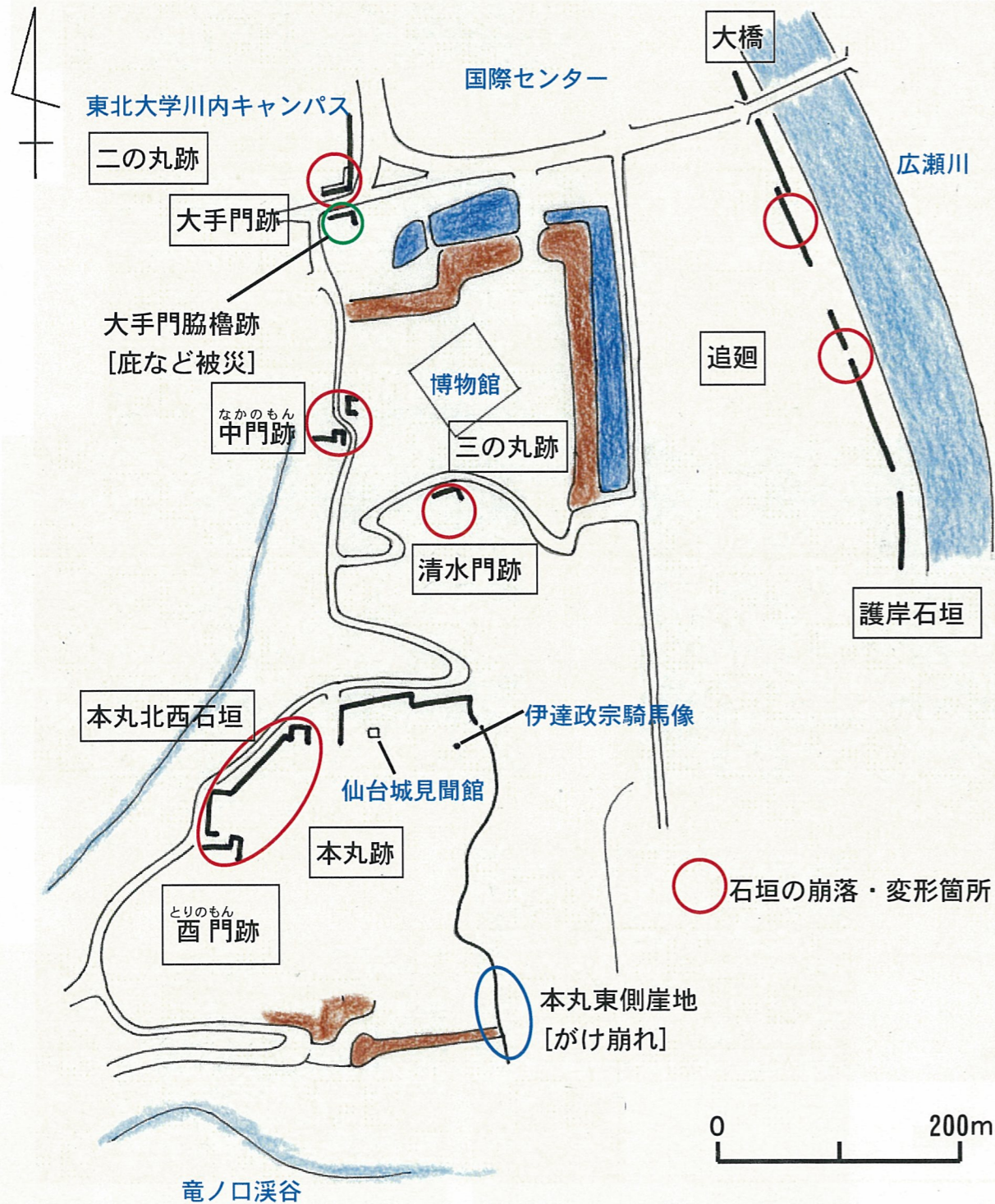


図1 仙台城跡の被災状況

2 災害復旧事業について

仙台城跡は国史跡であるため、被災後すぐに文化庁に被害状況を報告し、復旧の方針を協議してきました。その結果、国の補助を受けて災害復旧事業を行うこととなりました。

今年度は、本丸北西石垣の解体、中門石垣の解体積み直し、大手門北側石垣・土塀の復旧を行っています。また、国土交通省の補助により、本丸東側崖地の災害復旧工事を行いました（建設局）。仙台城跡の災害復旧工事は一部を除き、平成 27 年の 3 月の完了を目標に行われています。

3 大手門北側石垣・土塀の復旧について

大手門北側に位置する土塀と石垣は、地震により一部が崩壊しました。土塀は、崩壊部分は一度解体し、積み直しを行います。残りの部分は、荒壁と漆喰の塗り直しを行います。現在、解体部分の積み直しを行っているところです。



図2 土塀の被災状況

西部が大きく崩れたので、一度解体し積み直します。



図3 土塀の外壁を外した状況

内部は、土と瓦を交互に積み上げています。



図4 解体部分の地覆石

方形に加工された石を並べ土塀の基礎としています。

4 中門跡石垣の復旧について

中門跡石垣は、市道の南北両側に位置していますが、両方とも地震により変形しました。そのため、変形部分を中心に解体し積み直しを行います。北側石垣は、昭和 52 年にコンクリートを使用した修理が行われていましたが、今回の修理では史跡にふさわしく江戸時代の工法で積み直します。現在、解体がほぼ終了し、これから積み直しを始めます。



図5 中門北側石垣の被災状況

石垣石材がせり出しています。



図6 中門北側石垣の裏込め

石垣石材はコンクリートで固められています。



図7 中門北側石垣の解体状況

石垣基部にもゆがみが生じているので、今後修正していきます。

## 5 本丸北西石垣の復旧について

本丸北西石垣は全長約 200mありますが、3 か所で合計約 60mが崩落し、他にも変形した場所があります。今回は、崩落した場所とその周辺の変形範囲を復旧の対象としており、今年度は石垣の解体を完了させ、その後2 か年をかけて積み直しを行う計画です。

解体に先立つ天端（てんば：石垣の上面にある平場）の発掘調査では、4 つの石が 1 列に並ぶ石列が 1 か所で見つかりました。

石垣を解体している過程で、「元文」と刻まれた石材が見つかりました。「伊達治家記録」によると、元文元年（1736）3 月に地震があり幕府に石垣修理を願い出たとあります。今回見つかった石材は、この修理に用いられた石材であった可能性が考えられます。「元文」の石が見つかったあたりの石垣は、その後も修理が行われているようです。また、近くから「寛」と刻まれた石材も見つかっています。



図 8 南から見た解体調査状況  
手前が崩落部 3



図 10 石垣解体作業  
石工さんが 1 石ずつ解体していきます。



図 9 南部の石垣解体の状況  
(上：解体前 下：解体途中)

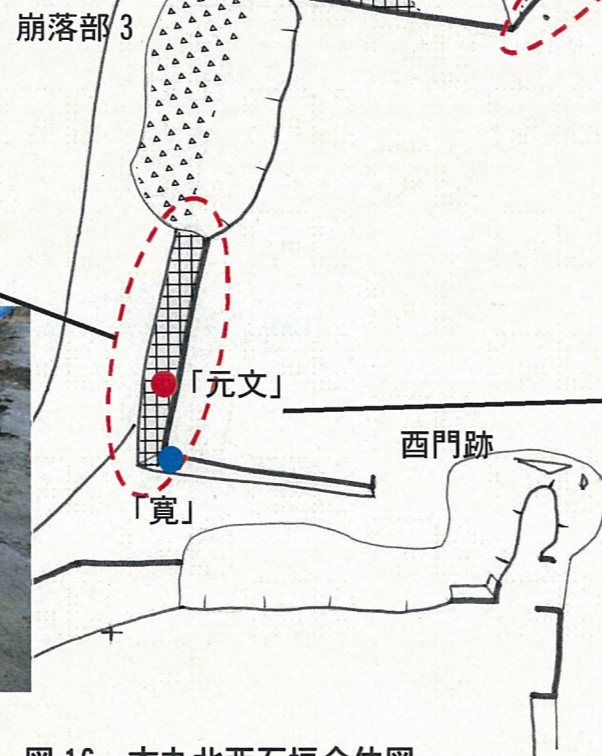


図 16 本丸北西石垣全体図

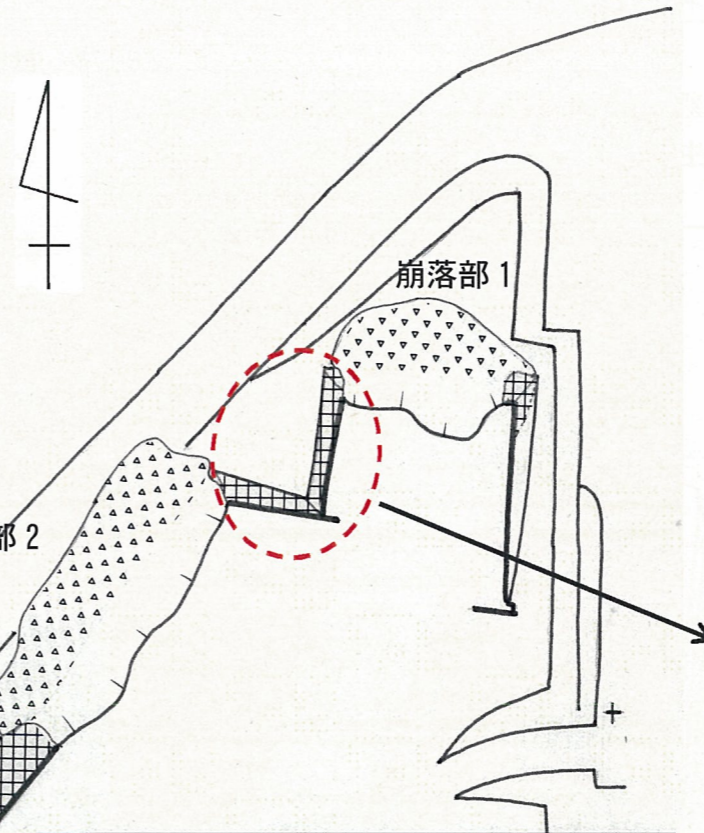


図 11 北から見た解体調査状況  
手前が崩落部 1



図 12 北部の石垣解体の状況  
(上：解体前 下：解体途中)



図 13 南西から見た石列の状況



図 14 石材に刻まれた「元文」



図 15 石材に刻まれた「寛」